

精鍊工場の六十四パーセント、亞鉛精鍊工場の全部を失つた。

既に困難な狀勢にあつたオーベルシュレジェンの重工業はかくて決定的な打撃を受けた。之等の工業がその原料(狭義)及び燃料の基礎から分離する傾向は一層強められた。現在精鍊される鑛石の中では僅かにその六パーセントがオーベルシュレジェン(但し波蘭領)の原産であるに過ぎない。鑛石の大部分は瑞典から輸入される。骸炭もその十五パーセントが精鍊業に使用されるに過ぎない。それで重工業が恵まれた地域に計畫的に移轉すると云ふことが考へられる。その候補地としてはブレスラウ(Breslau)とマルチ(Malsch)の間のオーデル河の低地が問題となる。此處は鑛石の搬入・骸炭の輸送・製品の出荷の點で都合だからである。併し巨額の投下資本は重工業の移轉を許さない。

立地の移轉は不可能としても新しい建設は恵まれた場所になさねばならない。それで化學

工業の萌芽がコーセル(Coesel)の北部に發生した。又骸炭製造所も各地に建てられた。と云ふのはこの骸炭製造業にとつては石炭から骸炭を製造する間に生ずる副産物がすべて用途を有するため石炭は純粹原料であり、従つてこの工業は特定の立地に結びつかぬ故である。又新しい亞鉛精鍊場の建設も亞鉛鑛山が獨逸側に残つてゐるため必要となつてゐる。(未完)

新著紹介

○地理論叢

第四輯

京大文學部地理學教室
古今書院發行 定價二圓八十錢

京都帝國大學文學部地理學教室の論叢は既に第四輯を世に問ふに至つた。論文は「人口を中心とする佐渡島の地理學的考察」(安藤鏗一)は佐渡の人口問題を微細に解剖し、次に「徳川時代に於ける外國地理譯書の概観」(若根保重)は増補華第通商考・地學正字・美理哥國總記和解・大美聯邦誌略・コルネル地學初歩などの寫眞を掲げて、紀行記・漂流物語・航海貿易關係書・海外雜誌・世界誌・地方誌・地名關係書・複刻書・人物圖會其他の項目にわたつて、徳川時代の西洋地理學研究の跡を尋ね、

重要な書目をあげて其解説を施したものであるが、この種の研究については初めての業績といふべく、「能登半島の人口地理學的考察」(大橋英男)も亦その靜態と動態とを詳述し、本邦海岸砂丘固定作業史の斷片(小牧實繁)は日本各地の砂丘とその歴史を集録し、「太田盆地」(朝永陽二郎)は美濃太田盆地が和名抄時代から開拓の進んだことをつげ、「大阪市に於ける工業の分布」(別枝篤彦)は大阪市に於ける工業分布狀態を明にしたもの、「筑後川流域平野の溝渠網に就て」(三友國五郎)は其史的發達から現狀に及ぶ變遷と自然地理との關係をのべ、「有度山の茶業に就て」(山口平四郎)は靜岡縣茶業地の發展を語るもの、「臺灣に於ける灌溉排水」(渡邊久雄)は臺灣に特有な埤圳の歴史とその現況を語つて各地域の排水區とその分布を明にしたもので、凡そ九篇菊版三百三十頁の大冊子である卷末に「南洋トラツクの民家(島之夫)についての報告がある。全體を通じて眞面目な有益な論文集であることを、同教室のために祝福する。(藤田)

○山東經濟事情

外務省通商局發行
海外經濟事情附錄

本書は通商局に報告された青島總領事館で島津理事の努力にかゝる熱心な調査の結果であつて山東省の經濟地理に關して、正確と微細とを極めたものである。第一章概説は大體の地理を論じ、第二章は外國の權益をのべついで港灣・海運・鐵道・金融・貿易・商業・通信機關・交通路・工業・農業・鑛業・漁業・

水産・畜産・重要物産の十八章にわたり深切丁寧を極めた經濟地理書、四六倍版四八頁の大冊子である。支那の多くの省別地理志の中でも、この本位正しくして且有益な本は稀であるといふべきであらう。(藤田)

○朝鮮歸化族の發展

朝鮮總督府 善生永助著

このパンフレットは雜誌朝鮮、昭和九年七、八、九月にのつたものを集めたもので、非賣品であるが、我國に歸化した朝鮮人の古代に於ける歴史とその姓氏をまづ姓氏錄から拾ひ出し、ついで地名から近畿に於ける歸化民族部落のすべてを風土記や和名抄から抽出し近畿の外、關東・北陸・東北・中國・四國・九州と小口おしにしらべたものである。その最も新しいものは征韓の俘囚で陸塵に入つた苗代川の二十二姓などをはじめ、九州に残存する多くの遺跡をさぐり、これらの多數の韓民の子孫が、いかに日木に同化したかといふことを明にしたものである。(藤田)

雜報

○ロシア沿海州の漁業權と日本人

現在ロシアの

沿海州漁業權は、日魯漁業株式會社を中心とする、カムチャツカ沿岸の鮭・鱒・鯡・蟹等の漁撈と製造を營む權利であるが、この權利が日本人の手に歸するに至つた歴史は簡單ではない。一派の政商の手に任すべきものでなくて、太平洋上に於